

2022.5.15 八千代栗谷遺跡研究会学習会

## 印西市本埜地区の富士信仰の石造物

藤 由美

本埜地区では、近世・近代の富士講が関連する石塔が多数あり、地域の組織的な山岳信仰として、出羽三山講よりも富士講が特に盛んであった。

古来、富士山は、神霊が宿る高山として、また同時に恐るべき噴火山として、崇拝畏怖された特別な信仰対象であった。中世に噴火が鎮まると、修験者による修業としての登拝が可能となり、近世になると開祖の長谷川角行や食行身禄らの行者の荒行とその験力、教えが一般の人々に広められ、後継者によって関東各地に富士講の「代参講」が組織されて、爆発的に富士信仰が流行した。

代参講は、数年間を単位に、地域の先達・講元・世話人の役職と講員数十名によって組織される。講員は、講を代表して輪番で1回は登拝でき、その代参費用は月並講などで集めて積み立てられた講費が充てられるシステムとなっている。

各地の代参講は、角行の後継者の法脈から約百数十の流派があり、房総では、山包講、丸不二講、山水講や割菱講などが盛んで、それぞれの「笠印」を持つ。先達は、上吉田の御師から許された「行名」を名のり、三十三度以上の登拝を成就した先達は「大先達」と呼ばれ、尊敬された。また三役と講員で毎月一回拝みを行う「月並講」も開かれていた。

本埜地区の富士講関連石造物の最古は、滝白山神社の延享2年(1745)「富士浅間宮／講中」銘の石祠、次いで竜腹寺浅間神社の明治12年(1879)「仙元神社」銘石祠で、大正10年(1921)の和泉屋

氷川神社の石祠まで、各地域の寺社境内9基の富士信仰の石祠が建てられている。

笠神の浅間神社に明治14年(1881)富士講中による石祠が奉納された後は、笠神浅間神社を本埜地区の拠点として、富士講が組織的に展開されていく詳細が同神社の石造物でわかる。明治19年(1886)の「磐長姫命」銘塔が「月並講」により建立、明治20年(1887)銘碑から昭和23年(1948)年銘碑までの6基の大型の富士講碑、「食行身禄尊師」銘塔、「御室仙元大士」銘塔の計9基があり、特に、明治20年銘碑は北須賀村の先達「小川北行」の「登山三十三度大願成就」を、明治37年(1904)銘碑は笠神區の先達「長行真山」の「三十五度大願成就」を記念し、笠神と本埜地区だけでなく印西市域内外におよぶ「山包講」の地域的な連携とその活動の盛況を伝えている。

また笠神以外の各ムラでも、和泉屋新田氷川神社の大正10年(1921)「大願成就／木行平月／おこたらず誠の道をの道を辿りつゝ神のみしるしとはにあおがん」銘の石祠や、行徳稻荷神社の大正13年(1924)「小御嶽大神／月並講」銘神塔など、近代の富士講関連の興味深い石造物がみられる。

以上、本埜地区の富士講石造物は、富士講碑は12基、石祠9基、神塔3基、記念碑2基、神社奉養物5基の計31基を数える。

表 印西市本埜地区の富士信仰の石造物

地区	種類	銘文(抜粋)	様式	紀年銘	西暦	計測値 c m	所在地
笠神	石祠(浅間神)	講中/先達 長行真山 (他105人)	石祠	明治14・11・-	1881	142×106×105	笠神浅間神社
	手水石	手洗心/長行(他8人以上)	手水石	明治15・8・1	1882	32×90×23	
	神塔(磐長姫命)	磐長姫命/月並講	自然石型	明治19・9・-	1886	93×63×56	
	富士講碑	(山)包/登山三十三度大願成就/小川北行(他111人)	自然石型	明治20・5・吉	1887	157×117×32	
	富士講碑	(山)包/登山三十五度大願成就/長行真山(他159人)	自然石型	明治37・7・-	1904	210×102×40	
	富士講碑	(山)包/碑 大講義 篠塚政行・岩井宗行(他123人)	平石型	大正9・11・1	1920	179×86×44	
	灯籠(竿石)	(奉)納/岩井宗行(他7人)	石燈籠	昭和6.6.1	1931	78×38×33	
	灯籠(竿石)	奉(納) / (人名7人)	石燈籠			78×38×32	
	階段袖石	代参講	角柱型	昭和6.6.1	1931	50×19×16	
	階段袖石	月並講	角柱型			47×19×17	
	富士講碑	食行身祿尊師/岩井宗行(他15人)	平石型	昭和6.6.1	1931	102×71×30	
	富士講碑	(山)包/代参講/月並講/大講義岩井宗行(他77人)	平石型	昭和8・8・13	1933	199×95×35	
	富士講碑	御室仙元大士/奉獻者 石川暢行	平石型	昭和9.12.-	1934	114×80×-	
	境内整備記念碑	社地擴張造林記念碑/扶桑教派笠神月並講(24人)	平石型	昭和11・11-	1936	109×63×25	
	富士講碑	(山)包/代参講/月並講/大講義押田國行(他89人)	平石型	昭和23・10・吉	1948	189×113×33	
石段新設記念碑	浅間神社/石段新設記念碑 (人名26人)	平石型	昭和29・2・吉	1950	125×79×32		
滝	石祠(浅間神)	富士浅間宮/印旛郡瀧村講中	石祠	延享2・1・吉	1745	69×44×32	滝白山神社
物木	富士講碑	富士浅間大神/登山記念 (人名17人)	角柱型	大正5・10・10	1916	137×62×60	物木諏訪神社
	富士講碑	浅間大神/登山記念 (人名13人)	角柱型	昭和14・7	1939	112×47×49	
竜腹寺	石祠(仙元宮)	仙元神社	石祠	明治12.4.吉	1879	77×60×30	竜腹寺浅間神社
下井	富士講碑	(山)包/講登山記念碑/講元故井上實行真月(58人)	平石型	大正15・10・吉	1926	155×120×40	下井鳥見神社
	石祠(浅間神)	浅間神社/先達吉植傳右エ門春山安行(他5名)	石祠	大正3・1・吉	1914	180×96×96	
将監	石祠(仙元宮)	仙元宮 當村講中	石祠	嘉永6・9・吉	1853		密蔵院
本埜小林	石祠(仙元宮)	仙現宮	石祠	慶応1・9・吉	1865	65×39×29	本埜小林水神社
松木	石祠(仙元宮)	仙(元宮)	駒形	明治5・11・同	1872	42×32×32	松木水神宮
押付	富士講碑	中構義真行秘月碑 講中 (人名103人)	平石型	大正14・11・吉	1925	204×113×44	押付ヤシロ水神社
	石祠(仙元宮)	仙元宮	石祠	嘉永7・8・吉	1854	83×458×35	
行徳	富士講碑	小御嶽大神 月並講 先達 服部八五郎(他33人)	平石型	大正13・12・吉	1924	72×38×9	行徳 稻荷神社
	石祠(富士講)	先達忠行 (人名多数)	石祠	明治7・9・吉	1874	107×70×59	
下曾根	富士講碑	少講義藤行源山 権少講義誠行真山碑 (97人)	平石型			233×142×60	下曾根市杵島神社
和泉屋	石祠(富士講)	(山)包/大願成就/「おこたらず・・」木行平月他12	石祠	大正10・6・朔	1921	100×62×62	和泉屋氷川神社